

福島第一原子力発電所 既設多核種除去設備(C) サンプルポンプ配管からの漏えいについて

< 参 考 資 料 >
2020年3月16日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

【概要】

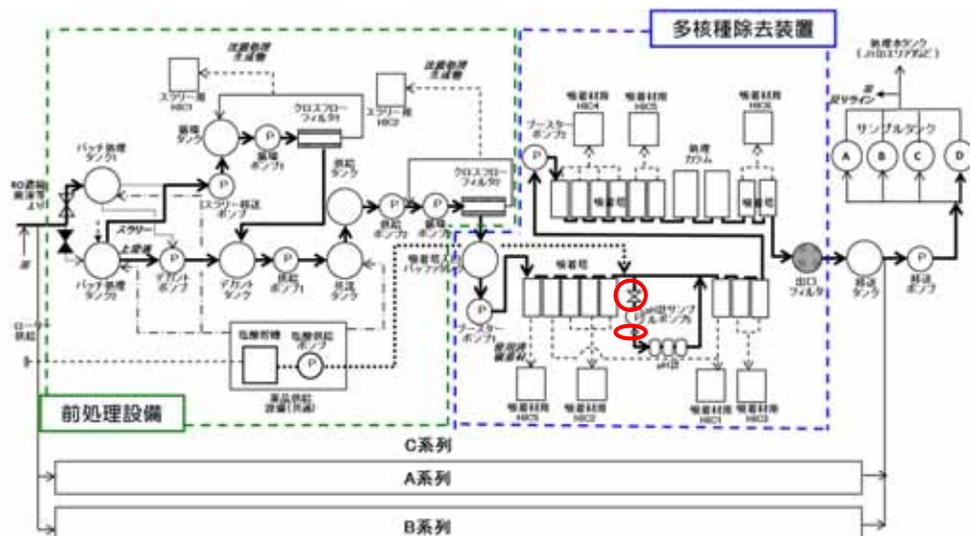
- 3月13日、午後6時15分頃、既設多核種除去設備（C）の漏えい警報（吸着塔6 C入口PH計ラック漏えい）が発生し、当社社員による現場確認の結果、サンプルポンプ入口弁とサンプルポンプ出口配管フランジ部から系統水が漏えいしていることを確認しました。
- 漏えいした水は堰内に留まっており、漏えい範囲は、約1m×2m×深さ3cm（ドレンパン内）、約30cm×30cm×深さ1mm（ドレンパン外）。既設多核種除去設備（C）停止後も漏えいは1秒に1滴程度で継続しておりましたが、漏えい箇所の増締めを行い、漏えいは停止しております。なお、滴下した水については、回収を完了しております。

※当該系統水の分析結果：全ベータ：1,700 Bq/L セシウム134:41 Bq/L

セシウム137:590 Bq/L

（3月13日採取）

- また、この漏えいに伴い、敷地周辺モニタリングポスト、連続ダストモニタに有意な変動はありません。



【系統図】



【漏えい箇所】

推定原因について

- その後の調査で当日、既設多核種除去設備（C）は運転を停止して吸着塔16Cの吸着材交換作業を行っていましたが、作業終了後に弁の開閉状態を通常状態に戻すために本来「開」にしなければいけない吸着塔6C PH計サンプル出口弁が「閉」であったことを確認いたしました。
- 上記弁が「閉」状態のまま既設多核種除去設備（C）系を起動したため、ポンプ締切運転となり、過剰な圧力がかかっているところで通水を開始したことから漏えいが発生したと推定しております。今後も詳細な原因分析ならびに再発防止策を検討してまいります。

